

日本学童保育学会 第12回研究大会 プログラム ーハイブリッド開催ー

■日 時：2022年6月25日（土）13時30分～

・26日（日）9時30分～

■会 場：中国学園大学子ども学部 1日目：1号館 2日目：12号館

（〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 番地）

大会日程及び開催方法

1日目	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
6月25日（土）				理事会		課題研究 I			自主企画 I	
2日目										
6月26日（日）			自由研究発表	総会		課題研究 II			自主企画 II	

<現地（中国学園大学）で参加される方へのお願い>

- ①現地参加される方も、事前に参加申し込みをし、大会参加費を納入して下さい。
- ②発熱時や体調不良の場合は大会参加をご遠慮ください。
- ③大学構内では、マスクを着用し、建物内に入る際の検温、手指消毒をお願いします。
- ④教室での着席は原則前後左右 1 席ずつ間隔を空け、食事中の会話は自粛して下さい。
- ⑤可能な方は、教室内で Zoom に接続できる端末（ノート PC、タブレット等）をご持参下さい。
- ⑥「発表要旨集」は印刷・製本・配布しませんので、事前に送付されたファイルを各自印刷したものを持参されるか、端末に入れたものをご覧ください。

<オンラインで参加される方へのお願い>

- ①参加申し込みをし、大会参加費を納入された方に Zoom の接続情報をお知らせします。
- ②Zoom に接続時は名前をフルネームにして下さい。接続するとまず待機室に入ってください、そこで大会参加費納入済みであることを確認した上で入室を承認します。
- ③討論時を除いて音声はミュートにして下さい。ビデオはオンにして下さい。
- ④Zoom アプリは最新のものをお使い下さい。通信環境は各自整えて下さい。
- ⑤万が一、進行を妨げる状況になった場合は、ご退室いただくことがあります。

■日 程

6月25日(土) [1日目]

12:00～13:00 理事会 (1202 教室)

13:00～ 受付 (現地参加: 1号館エントランス オンライン: Zoom)

会員控室・書籍販売 (1号館エントランス)

13:30～16:30

課題研究 I 学童保育と地域社会の関係を問う (1201AB 教室)

【趣旨】

1970年代前後、地域に子どもたちの放課後の安全な居場所をつくることを目指して学童保育所の「つくり運動」が全国的に取り組みられ、子育て家族が共同して組織した保護者会が運営する共同学童保育所がつくられていった過程は、地域における子育てのあり方を考え、地域の子育て環境の改善・充実を図る過程でもありました。

しかし、今や学童保育所の過半数は学校の敷地内に設置され、保護者にとって学童保育は公共事業として提供されるサービスを受ける(買う)ものとなっています。放課後も学校のフェンスの中で過ごす子どもたちが地域に出て遊ぶことも多くありません。今日の学童保育は地域社会とのつながりを弱め、施設にやってくる子どもたちに施設の中で保育サービスを提供する営みになってきているのではないのでしょうか。そして、「地域との連携」と言っても施設の中、フェンスの中の取組に地域の人々の参加と協力を得ることにとどまっているのではないのでしょうか。「放課後児童クラブ運営指針」は育成支援の内容として「地域での遊びの環境づくりへの支援も視野に入れる」ことを求めています。そうした地域づくりの視点は弱まっているのではないのでしょうか。

そこで、本課題研究では、学童保育は地域社会とどのような関係を構築し、地域社会の中でどのような役割を担っていくことが求められているのか、そのためにどのような実践に取り組む必要があるのかについて考えることを目的として設定されました。

塚田由佳里会員には、大阪市の事例を中心に地域の中で子どもが育つ学童保育実践がどのような地域社会とのつながりの中で実現しているのかを報告していただきます。森賢悟会員には、学童保育を卒所した高学年の居場所づくりに取り組んだ経験から、地域の子育て環境の改善・充実のために学童保育はどのようなことができるのかについて報告していただきます。若井暁会員には、2018年7月の西日本豪雨の際に被災地の子どもたちへの学童保育を提供した経験から、地域社会の危機に対して学童保育ができることは何かについて報告していただきます。最後に宮崎隆志会員から日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』(2021)に執筆された内容に触れつつ、三人の報告を踏まえて、学童保育と地域社会との関係について論点整理していただきます。

【報告者】

- ・塚田由佳里 (同志社女子大) 地域のなかで子どもが育つ学童保育
- ・森 賢悟 (NPO 京都親子支援センター チャレンジクラブ)
地域の子育て環境の改善・充実と学童保育
- ・若井 暁 (くらしき放課後児童クラブ支援センター) 地域の危機と学童保育の役割
- ・宮崎 隆志 (北海道大学) 学童保育と地域社会との関係を考える

【司会】

- ・住野 好久 (中国学園大学)

17:00～18:15 自主企画 I

1 「判断の問われる場面調査」から指導員の専門性について考える (1202 教室)

およそ 20 年前に行われた「判断の問われる場面調査」を元にして、現在同様の調査を企画・実施しています。当日は予備調査の結果を参照しながら、指導員の専門性やその構造について意見交換したいと思います。主に、学童保育が「生活の場」であることに由来する親密性の提供や、集団の中で発揮される集団性としての専門性、家庭・学校・地域の総体を見通して働きかける総合性など、学童保育に固有の専門性について考えたいと思います。

大谷直史 (鳥取大学教員養成センター) 代田盛一郎 (大阪健康福祉短期大学)
二宮衆一 (和歌山大学) 松田洋介 (大東文化大学) 松本歩子 (高野山大学)

2 全国に広がった岡山発、作業療法士連携 (1203 教室)

2016 年から岡山県備中県民局協働事業で「地域でチームで長い目で」と掲げ、作業療法士と学童保育指導員の連携による発達障害児等の特性のある子どもたちの支援事業を試行し、WAM 助成事業や地元財団を活用しながら、全国の学童保育関係者や作業療法士に周知しながら、施策化を目指し、一定の成果があがった。具体的な例を紹介しながら、指導員チームのスキルアップ、学校等の他機関との連携、多職種との連携による学童保育の質の向上について深める。

糸山智栄 (岡山県学童保育連絡協議会) 若井 暁 (くらしき放課後児童クラブ支援センター)

6月26日 (日) [2日目]

9:00～ 受付 (現地参加: 12号館エントランス オンライン: Zoom)

会員控室・書籍販売 (12号館1階 第2学生ホール)

9:30～12:00 自由研究発表

<第1分科会 司会: 小伊藤亜希子 (大阪公立大学) (M-301 教室)>

9:30～9:35 開会・オンライン確認

9:35～10:05

支援員に求められる専門性について、性差による意識の違いがあるのかを明らかにする。

岸本晃司 (おかやま放課後児童クラブ運営機構)

10:10～10:40

特別な配慮を要する子どもの過ごし方と学童保育施設

清水 肇 (琉球大学) 三原 唯 (日軽パネルシステム)

10:45～11:30

放課後児童クラブと小学校との連携システムの確立について

矢吹真子 (岡山市たけのこクラブ) 周防美智子 (岡山県立大学)

11:30～ 総括討論

<第2分科会 司会：福田敦志（大阪教育大学）（M-202 教室）>

9：30～9：35 開会・オンライン確認

9：35～10：05

学童保育の歴史1 ―松本ちさえ資料と民間教育団体―

小暮健一（明星大学）

須之内玲子（元日本女子大学附属家庭福祉センター）

10：10～10：40

スウェーデンの学童保育の保育内容 文化を読む

小暮健一（明星大学）

10：45～11：15

フィンランドの学童保育と指導員資格に関する研究

塚田由佳里（同志社女子大学）

住野好久（中国学園大学）

松本歩子（高野山大学）

鈴木 瞬（金沢大学）

植木信一（新潟県立大学）

中山芳一（岡山大学）

11：20～11：50

大阪学童保育連絡協議会結成の経過と歴史的意義

石原剛志（静岡大学）

11：50～ 総括討論

<第3分科会(オンライン)司会：楠凡之（北九州市立大学）（M-201 教室）>

9：30～9：35 開会・オンライン確認

9：35～10：05

学童保育に通う児童の理解・関心に寄り添って進める「3・1・2 弁当箱法」学習プログラムの開発

高橋比呂映（宮城学院女子大学）

平本福子（宮城学院女子大学）

10：10～10：40

学童保育指導員による自主的自発的研修システム

―被災地におけるシステムの再構築過程に着目して―

植木信一（新潟県立大学）

鈴木 瞬（金沢大学）

10：45～11：15

学童保育指導員は、生活と発達の主体者としての子どもに、どう寄り添うか？

森崎照子（学童保育カンファレンスルーム）

11：20～11：50

オーストラリアの学童保育におけるプランニング方法の実践報告

―「子どもの活動記録」を中心に―

松本遼子（CommunityOSH Richmond Primary School）

11：50～ 総括討論

12：20～13：00 総会（M-201 教室）

*総会に出席しながら、会場で昼食をとることが可能です。

13 : 20 ~ 16 : 00

課題研究Ⅱ 学童保育指導員のチームワークを考える (M-301)

【趣旨】

全国学童保育連絡協議会が行っている「学童保育（放課後児童クラブ）の実施状況調査」によれば、2021年5月1日時点での入所児童数は130万7,699人。2015年の子ども・子育て支援新制度以降、約30万人増加している。1997年の児童福祉法の改正以降の入所児童数の増加は、学童保育に通う子どもたち、そして家庭の多様性をより一層進めている。

そうした多様な生活背景を持つ子どもたちの成長・発達を保障し、保護者の生活・就労を支えていくためには、指導員一人ひとりの専門性が必要であると同時に、指導員が集団として保育にあたること、つまり指導員が個々で力を発揮するだけでなく、組織として力を発揮することが不可欠となってきた。その鍵となるのが、指導員間のチームワークである。

学童保育指導員のチームワークについての研究は始まったばかりであるが、少なくとも2点の課題が指摘されてきた（長瀬美子「指導員のチームワークを考える」日本学童保育士協会編『学童保育研究』17号、2016）。1点目は、指導員の多様性である。学校教員や保育士と比べると、指導員は経験や経歴、学童保育や子育てに関する考え方の幅が広い。つまり子ども観や保育観などに大きな違いがあり、一致点をつくりにくい難しさがある。2点目は、指導員の勤務条件の多様さである。指導員の多くは非常勤やパート、アルバイトで働いており、時差勤務や週数日の勤務が広くみられる働き方となっている。そのためチームワークの形成に不可欠となる会議や打ち合わせといった情報共有や保育についての対話をする時間を創り出すことが難しい状況がある。さらに1つの支援単位における指導員の連携と複数の支援単位を1施設として運営している学童保育では連携のあり方が違うことも現場の指導員から指摘されている。

この課題研究では、こうした学童保育指導員のチームワーク関わる課題を踏まえつつ、以下のような点を考えたい。第一に、学童保育実践において求められる指導員のチームワークとはどのようなものなのか、第二に、多様な経験や経歴等を持ち、かつ多様な働き方をしている指導員の間でチームワークを形成するために必要な方法とは、どのようなものなのか、特に主任といったポジションに就いている指導員が果たす役割について、学童保育が置かれている具体的な状況を踏まえつつ、登壇者に提起してもらい、今後、学童保育実践において指導員に求められるチームワークのあり方について議論したい。

【報告者】

- ・長瀬 美子（大阪大谷大学）
- ・小野 智子（岡山県学童保育指導員）
- ・福 武利（大阪府学童保育指導員）

【指定討論者】

- ・鈴木 瞬（金沢大学）

【司会】

- ・二宮 衆一（和歌山大学）
- ・吉岡 美保（福岡県学童保育指導員）

16 : 15 ~ 17 : 30 自主企画Ⅱ

1 学童保育における最低基準について考える (M-301 教室)

1997年学童保育は児童福祉法第6条の3第2項に位置づけられ、2万6625か所支援の単位は3万4557単位と増加を続けている。2014年「放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準」(「省令基準」)2015年「放課後児童クラブ運営指針」が作成された。しかしながら、「省令基準」策定から僅か5年後「従うべき基準」として定められた資格や配置基準は参酌化される。指導員の働く条件・環境となると依然低賃金で「不安定な雇用」「劣悪」と言わざるを得ない。加えてコロナ禍、感染拡大で学童保育現場は狭く大変厳しい状態である。

この企画は、なぜ、実態が引き上がらないのかを法文、実施要綱、「設備及び運営の基準」の内容を読み解き、その問題点を指摘する。その上で、子どもの最善の利益を保障するために最低基準の内容を考察し、法的位置づけについて考える。

企画者・司会 小暮健一 (明星大学教育学部非常勤講師)

企画者・提案者 田村一志 (全日本建設交運一般労働組合全国学童保育部会事務局長)

助言者 垣内国光 (明星大学名誉教授)



■ 大会参加費

□ 2日間参加でも、会員2,000円 非会員3,000円 学生はそれぞれの半額とします。
ただし、「発表要旨集」は印刷・製本いたしません。大会参加申し込みをされた方に事前送信するPDFファイルをご覧ください。

□ 大会参加申し込み後、参加費を以下まで事前にご送金ください。

【ゆうちょ銀行 総合口座 加入者名：日本学童保育学会】

・ゆうちょ銀行口座間の場合 → 記号：14130 番号：89883251

・他金融機関からの場合 → 店名：418 普通 口座番号：8988325

※必ず申込者のお名前でお入金ください。

■ 大会参加申し込み (オンライン参加は6月22日まで)

□ 大会にオンライン参加される方は、6月22日(水)までに参加申し込みをし、大会参加費をご送金ください。参加費の支払期日も6月22日(水)です。大会参加費の受領を確認後、Zoomの接続情報等を連絡いたします。大会当日までに、各自Zoomの接続環境を整えてください。

□ 現地参加される方も、原則として6月22日(水)までに、大会参加申込み、大会参加費納入をお願いします。

□ 参加申し込みは右のQRコードで「参加申込フォーム」にアクセスして、必要事項をご記入下さい。

<https://forms.gle/71WfsuXHZRiNq9aX8> (学会HPからもできます。)



■会場までのアクセス

<JR岡山駅まで>

(飛行機)

- 飛行機は、現在、東京（羽田）からと沖縄（那覇）からのみ運行されています。
- 岡山桃太郎空港からは、リムジンバスで岡山駅西口まで約30分、780円です。

(JR)

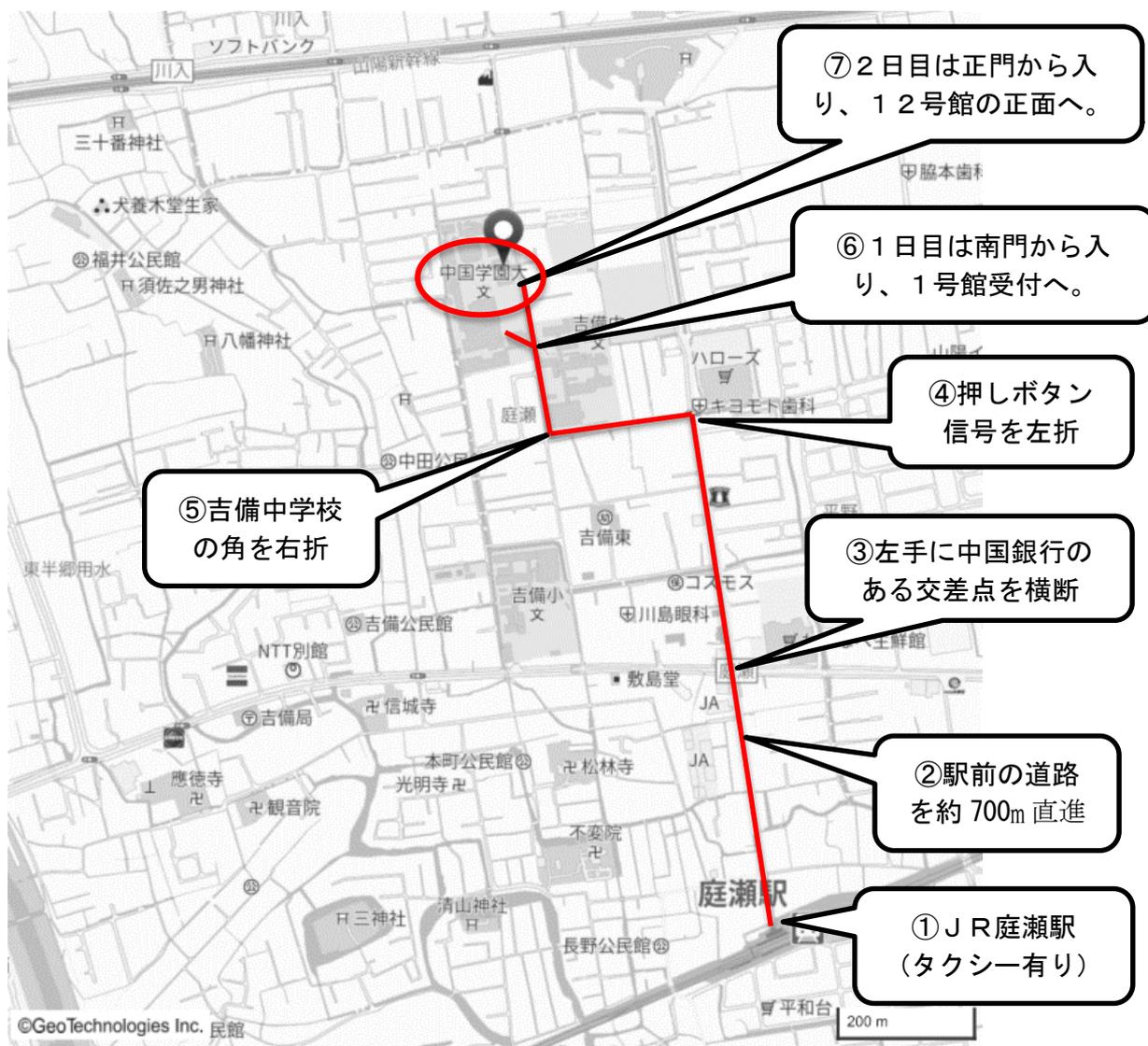
- 新幹線で、東京から約200分、名古屋・博多から約100分、新大阪から約45分です。

<JR庭瀬駅まで>

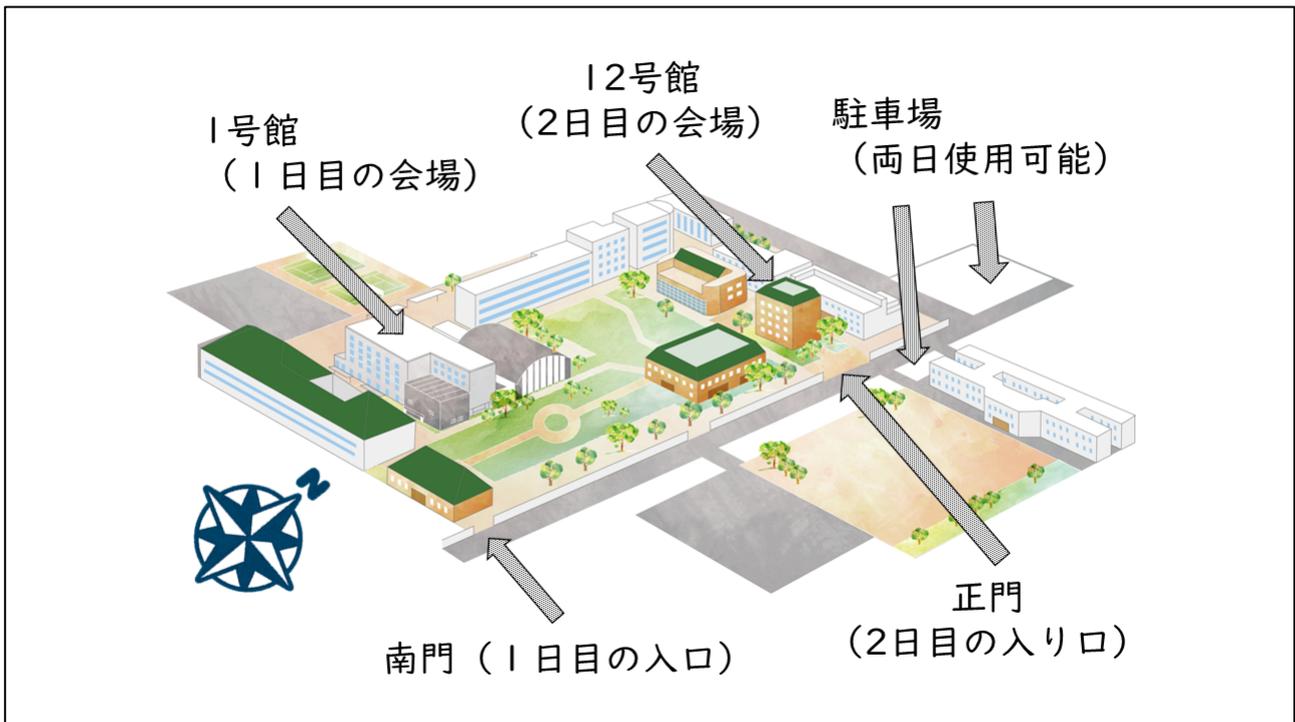
- JR岡山駅の1・2番ホームから出発する山陽本線（倉敷、福山、糸崎、三原方面行き）、伯備線（備中高梁、新見方面行き）で2駅、7分、200円です。
- JR倉敷駅の3番ホームから出発する山陽本線（岡山、相生、瀬戸方面行き）で2駅、9分、200円です。

<中国学園大学まで>

- 下図のルートでゆっくり歩いて約15分（約1キロ）
- 庭瀬駅からタクシーも利用できます。



■ 駐車場について



- 駐車場は、正門の前とキャンパス北側の2か所ありますので、ご利用下さい（無料）。
- キャンパス北側の駐車場の民家に面している場所は、前向きで駐車してください。

■ 周辺宿泊施設について

- 大会会場の最寄駅である庭瀬駅周辺には宿泊施設はありません。
- 岡山駅周辺、あるいは倉敷駅周辺の宿泊施設をご利用下さい。

■ 昼食について

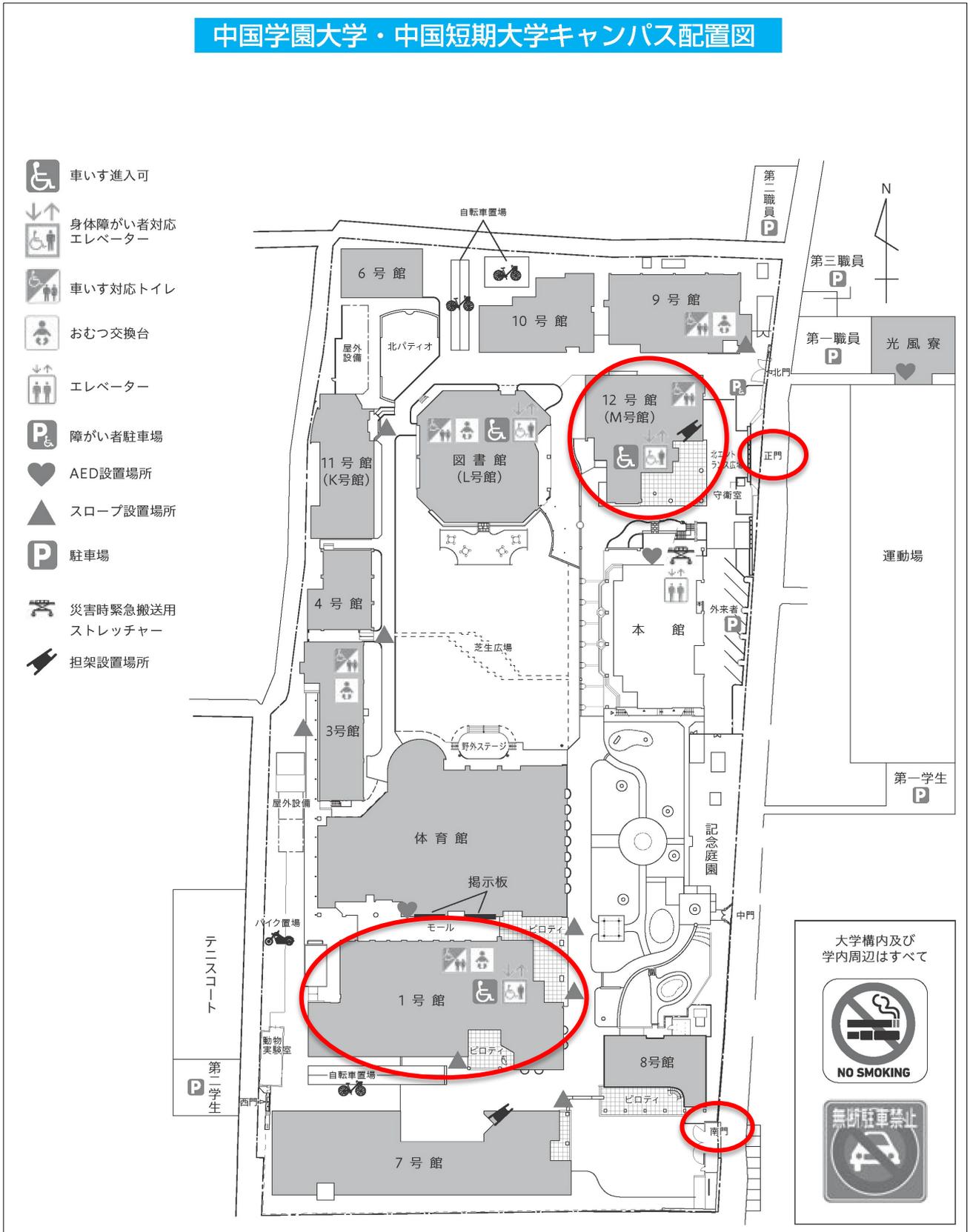
- 1日目も2日目も、学内の食堂は営業していません。
- 徒歩5分ほどで、24時間営業のスーパーマーケットやコンビニがあります。
- 徒歩10分ほどで、飲食店がいくつかあります。

■ 受付・会場について

- 受付は、初日は南門から入って奥右手の1号館1階で、2日目は正門すぐの12号館3階です。
- 受付では、学会費の納入もできます。学会費を納入された方には学会機関誌が配付されます。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定、手指消毒、マスクの確認等をさせていただきます。
- 各教室の入口には消毒薬とペーパータオルを配置しますので、随時ご利用下さい。
- キャンパス内及びキャンパス周辺はすべて禁煙です。
- クロークはありませんが、会員控室に荷物等を置くことはできます。
ただし、各人で管理をお願いします。
- 会員控室では、書籍販売を行っております。

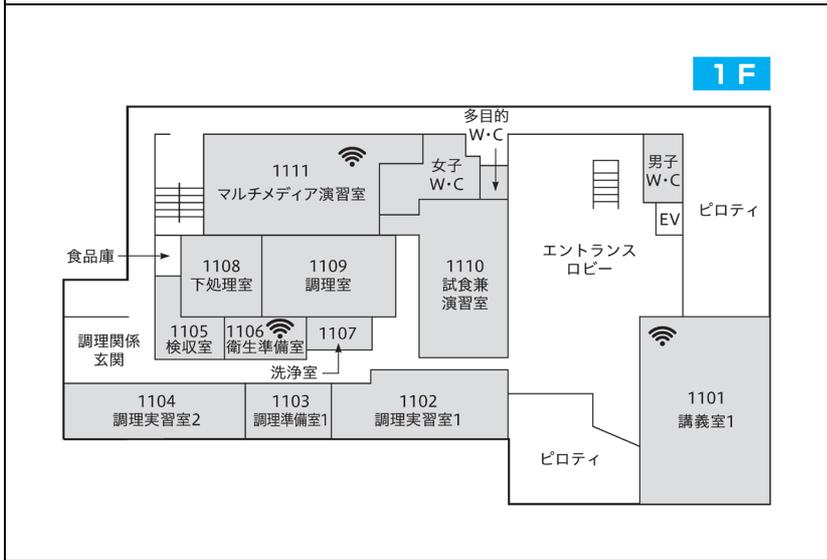
■会場図

中国学園大学・中国短期大学キャンパス配置図

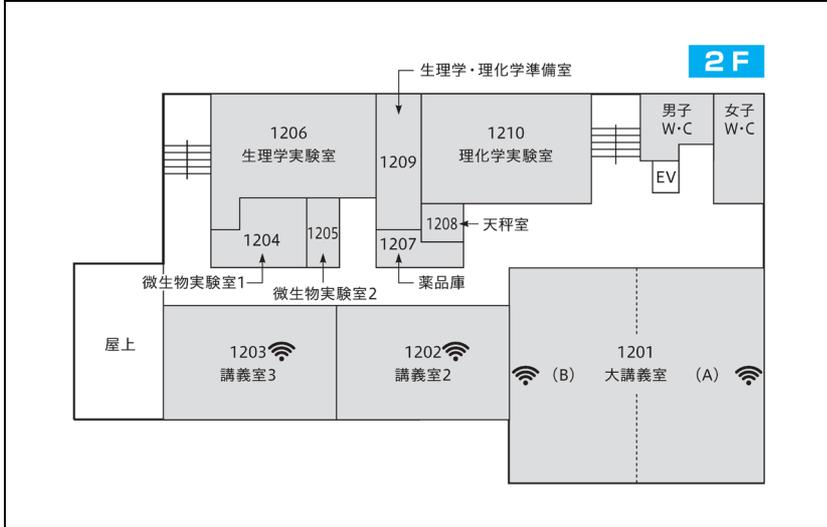


○南門、正門、1号館、12号館の位置をご確認下さい。

1号館 教室配置図

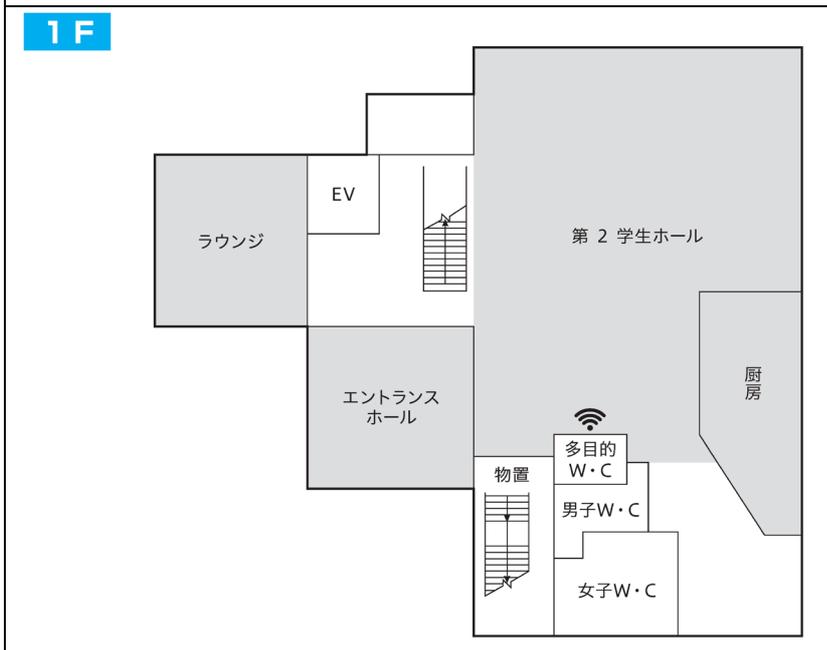


- エントランスロビー
初日の受付、会員控室・書籍販売
(消毒、検温)
- 1101 学会事務局、大会校本部



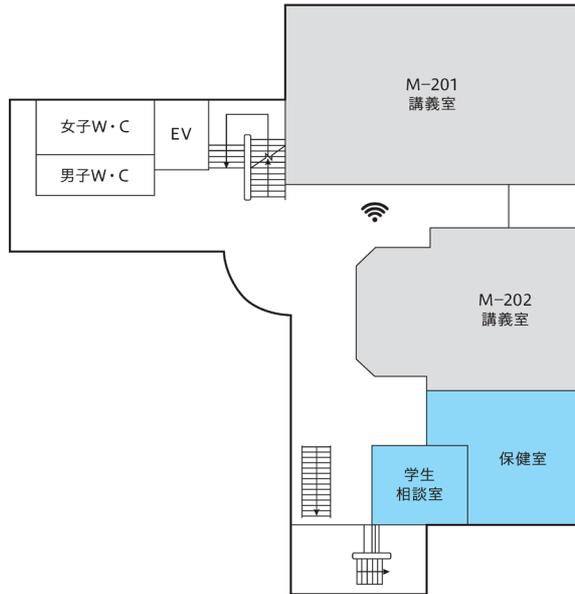
- 1201AB
課題研究 I
- 1202
理事会、自主企画 I
- 1203
課題研究 I 打ち合わせ
自主企画 I

12号館 教室配置図



- エントランスホール
(消毒、検温)
- 第2学生ホール
会員控室・書籍販売

2F



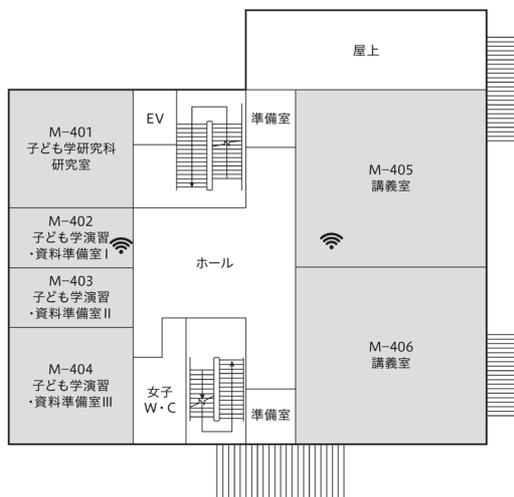
- M-201
自由研究発表 第3分科会
総会
- M-202
自由研究発表 第2分科会

3F



- ホワイエ
2日目の受付
- M-301 [飲食不可]
自由研究発表 第1分科会
課題研究Ⅱ、自主企画Ⅱ
- M-303
学会事務局、大会校本部
- M-304
課題研究Ⅱ 打ち合わせ

4F



- M-402, M-403, M-404
スタッフ控室
- M-405, M-406
予備教室

<問い合わせ先>

□第12回研究大会の参加・発表等に関する事

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 中国学園大学子ども学部 中田研究室気付

第12回日本学童保育学会大会実行委員会 事務局長 中田周作 E-mail nakada@cjc.ac.jp

□学会・入会・会員資格等に関する事

〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685 高野山大学文学部教育学科 松本研究室気付

日本学童保育学会事務局 事務局長 松本歩子 E-mail jimukyoku@gakudouhoikugakkai.com

<学会HP>

<http://www.gakudouhoikugakkai.com/>